

ShinRo式 過去問の正しい使い方

志望校に合格するためには、偏差値ばかり気にしているより、入試を突破するための対策をしっかりと立てて学習を進めなければなりません。その最高のアイテムが「過去問」なのです。過去問には、合格に必要な情報がたくさん詰まっています。ただし、そこから貴重な情報を取り出すためには、いくつかのポイントがあります。まずはこのページをよく読みましょう。

さあ、志望校の過去問を手に入れて、早速はじめよう！

過去問を使って模擬試験

1 まずは時間を計って解いてみる

まず最初は、模擬試験のつもりで解いてみよう。志望学部の最新問題を選んで、解答時間を確認し、全体の問題構成をざっと頭に入れて解いてみる。過去問は、私立大学なら大学が発行している入試問題集(解答つき)なら無料で手に入るからベストだ。それがなければ、いわゆる「赤本」などの市販の問題集でいいだろう。時間がきたら必ずエンピツをおくこと。

2 採点してみよう！

解き終わったら、印象が薄れないうちにすぐ採点しよう。といっても、個々の配点が不明な場合が多いだろうから、全設問(全解答箇所)数に対して何箇所正解したか、という「正答率」を出してみる。大きな問題ごとに、何問中何問正解したかである。※立命館大のように、大問の中に【1】【2】【3】といったタイプの異なる小問のグループがある場合は、右ページの【例1】のようにグループごとに正答率を出すのがよいだろう。

3 解いた問題を振り返ってみよう！

手応えはどうだった？意外にやさしい問題があったとか、今の自分には難しい問題が多かった、不慣れな形式の問題があった、時間が足りなかったなど、問題全体の印象を覚えておこう。そして自分の解答を振り返って、失敗した点は何かを探ってみる。

★「時間が足りなかった」…時間切れでできなかった問題があった場合は、そこを中心にやってみよう。今度はできるまでの時間を計ってみる。そしてその部分の採点をしてみて、けっこうできているとすれば、キミは大損していたことになる。つまり、わかりにくい問題に固執して時間を費やしてしまい、点の取れる問題に十分手をつけられなかったのだ。時間配分や解答順序に問題があったといえる。君の志望校には必ず「出題傾向」があるのだから、過去問を分析して、その問題に最適な、キミ自身の解答方法を見つけ出そう。

★「つまらないミスをした」…いわゆるケアレミス。自信を持って解答したつもりが不正解。練習だからいいよなもの、本番だったらどうする！…「気をつけよう」となんて軽く考えてはダメ。2度と繰り返さないよう、次からは細心の注意を払おう。

4 同じ大学の、別問題に再アタック！

振り返りが済んだら他の学部や別の年度の問題を使って再チャレンジしよう。今度はキミの持っている実力を存分に発揮して前回の成績を上回るよう頑張ってみよう。そして前回と同様に、それぞれの得点率を出していき、前回の出来と比較してみよう。

5 採点結果をまとめてみよう！

2回の採点結果を分析するために、下のような表を作成しよう。作成例として、仮にAさんが立命館大と関西学院大の英語を解いてみたとする。両大学は、大問ごとに問われる内容・形式・分量が例年一定している。採点結果を入れてみよう。

【例1】

■立命館大学 全学統一方式(2/2実施分) 80分(2024年度)

大問	小問数	設問内容	設問数	正解数	正解率
I 読解	3	英問英答	4	3	80%
		内容真偽判定	5	4	
		表題選択	1	1	
II 読解	2	空所補充(語句)	8	4	53%
		語句の内容説明文選択	5	3	
III 会話文	2	対話文の完成(通文選択)	4	2	62%
		対話文の完成(通文選択)	4	3	
IV 文法・語彙	2	短文完成(空所補充)	8	6	75%
		短文空所補充(通語選択)	5	3	
V 文法・語彙	2	同義語選択	5	5	80%
		同義語選択	5	5	
合計			49	34	69%

■関西学院大学 全学部日程(2/1実施分)90分(2024年度)

大問	小問	設問内容	設問数	正解数	正解率
I 読解	A	空所補充	6	4	66%
		同意表現	4	2	
		内容説明	2	3	
		内容一致	3	1	
II 読解	A	同意表現	5	3	64%
		内容説明	4	3	
		内容一致	2	1	
III 読解	A	空所補充	8	6	70%
		内容一致	2	1	
IV 文法・語彙		短文完成(空所補充)	10	9	90%
V 文法・語彙		整序英作文	5	4	80%
VI 会話文		会話文完成(空所補充)	10	5	50%
合計			61	42	69%

↑このように、模擬試験の成績表のような表を自分で作ってみよう。出来る部分や力を入れるべき部分がはっきりとわかる。

6 採点結果から学習目標を立てる！

一般入試の合格ラインの目安として、満点の70%以上は超えてほしい。これを基準に、上回った設問と、下回った設問に分けてみれば、どこに重点を置いて学習しなければならないかがよくわかる。いまなら、まだ基礎事項ができていない不得意分野を整備していくことも可能だ。ここに重点を置いて学習計画を立てよう。さらに、「点が取れそうな設問でもっと確実に点が取れるようにする!」という目標を立て、過去問で実践演習を積み重ねよう。

過去問を最大限に生かす！

今度は、関西大学の英語を例にとって過去問演習の方法をアドバイスしよう。先ほどと同様に関大志望のBさんが解いた2回の結果が【例2】だ。関西大学の合格を目指すには英語の正解率は75%以上が必要になる。1回目は大問IIIの内容説明等の正答率は80%を超えているが、大問Iの会話文と段落整序問題、大問IIの空所補充問題の正解率が低いことがわかる。正解率が低い問題については、その問題を解くための基礎知識が不足しているのか、問題の解き方がわからないのかを確認する必要がある。基礎知識が不足している場合は、問題集や参考書などで基礎事項をしっかりと身につけ学力を高める努力をして欲しい。こうした問題についての過去問演習はそれからしよう。

問題の解き方がわからない場合に「過去問演習」が大切になる。正答率が70%以下の問題に絞って、他の日程の問題や年度をさかのぼってやってみよう。関西大学の英語は2024年度の一般入試だけで7種類もある。これも解いて、不明なところは徹底して調べて知識をつけていく。このように進めていくと、解くために必要な知識が吸収できるばかりか、その大学が「出しそうな」出題の傾向が自然と頭に入ってくる。すると、普通の問題集をやる時にも、「こんな問題は出そうだな」という意識を持って進めることができるようになる。「取れそうな問題」が訓練によって「取れる問題」に進化すれば、合格への大きな自信につながるのだ。同時に、取れない問題についての基礎事項の整備も忘れてはならない。

関西の私立大学の多くは、大学全体で統一して問題を作成するため、学部ごとの傾向というものがない。だからこうした学習方法は、関関同立や甲近産龍をはじめ多くの大学で適用することができるのだ。さあ、志望校の過去問を最大限に活用して、合格へと一歩ずつ前進していこう！

【例2】Bさんの関西大「英語」の正解状況

大問ごとの内容	1回目			2回目		
	設問数	正解数	正解率	設問数	正解数	正解率
(I)A 会話文	5	3	60%	5	4	80%
(I)B 段落整序	6	2	33%	6	4	67%
(II)A 空所補充	15	4	27%	15	10	67%
(II)B 内容一致	7	6	86%	7	5	71%
(III)A 内容説明等	10	8	80%	10	7	70%
(III)B 内容一致	7	6	86%	7	7	100%
合計	50	29	58%	50	37	74%

できない問題は「基礎」に戻って！



できそうな問題は過去問で実践演習！

